



Hong Kong Representative Office

香港駐在員報告



コロナ禍の香港における “日本”の変化



1 新型コロナウイルスの 感染拡大状況

香港では、2020年11月下旬に発生した「第4波」が2021年5月に収束して以降、新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着いています。2021年9月末時点において、8月中旬から1ヶ月以上も、域内感染者数（海外からの輸入感染者数を除く）がゼロを記録しています。但し、第4波の時期より多少緩和されたとはいえ、香港政府は徹底した防疫措置を継続している状況です。

2 日本旅行

2019年まで、香港からの出境者数は、LCC路線の拡

大もあって右肩上がりでした。また、その高まる海外旅行ニーズの受け皿として、日本はダントツの人気国でした。2019年の香港からの訪日旅行者は約229万人ですが、香港人口の約752万人と比較すると、その人気度合いが分かるかと思えます。香港市民にとっての日本旅行は、日本人にとってのハワイ旅行のように、海外旅行の定番と言えました。【図1】

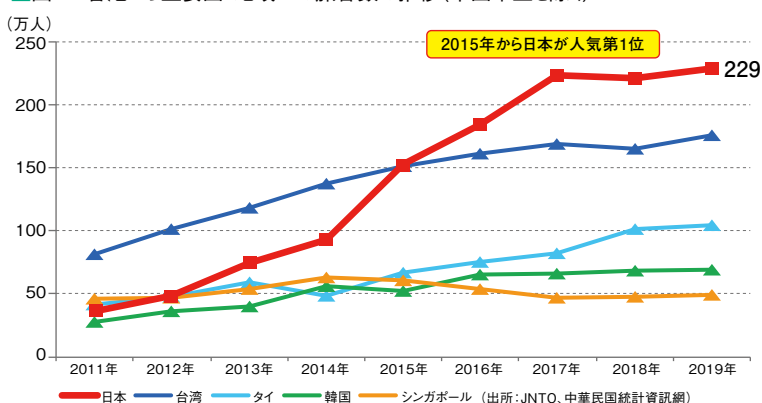
しかし、コロナ禍によって日本旅行が制限され、面積の狭い土地に留まり続ける香港市民のフラストレーションは非常に高まっています。入出境規制を受けない「フライケーション」(Flycation ※1)「図2」や「無寄港クルーズ旅行」では、日本をテーマとした企画も人気を評しており、日本旅行の雰囲気味わう方法の一つになっているようです。

■図2 “Flycation”の日本企画



(出所: EGL HP)

■図1 香港から主要国・地域への旅客数の推移(中国本土を除く)





■図3 日本産農林水産物・食品の香港向け上位輸出品目

	2019年	2020年
①	真珠(天然・養殖) 285億円	なまこ(調製) ↓ 154億円
②	なまこ(調製) 187億円	アルコール飲料 ↑ 100億円
③	たばこ 98億円	たばこ ↓ 79億円
④	アルコール飲料 63億円	貝柱(調製) ↓ 58億円
⑤	菓子(米菓を除く) 59億円	牛肉 ↑ 54億円
⑥	貝柱(調製) 59億円	清涼飲料水 ↓ 51億円
⑦	清涼飲料水 56億円	菓子(米菓を除く) ↓ 50億円
⑧	牛肉 51億円	真珠(天然・養殖) ↓ 46億円
⑨	ホタテ貝(調製) 48億円	鶏卵 ↑ 45億円
⑩	りんご 37億円	ソース混合調味料 ↑ 35億円
合計	2,037億円	2,060億円

(出所:農林水産省)

3 日本産食品

香港は、2005年から16年連続で日本にとって最大の農林水産物・食品の輸出先です。しかし、香港での飲食店の営業規制等を背景に、2020年の輸出品目の構成には変化が見られました。「なまこ」等の高級食材の需要が減退した一方で、「鶏卵」等の日常食材や「日本酒」等のアルコール飲料の需要が増進しました。[図3]

なお、2019年7月に香港1号店を新規出店した「DON DON DONKI(ドンドンドンキ ※2)」「図4」の急拡大(現在:8店舗)を契機として、小売店による取扱商品の差別化を図る動きが加速し、香港は幅広い種類の日本産食品を更に購入しやすい環境になったと実感します。

また、飲食店においても、本格的な日本料理店が盛況、回転寿司「SUSHIRO(スシロー)」の急拡大、日本酒バーの新規出店

では、市場調査、現地進出、ビジネス

4 おわりに

といった動きが見られます。

以上のように、日本と自由な

往来は出来なくなりましたが、

香港内で「日本」を感じる機会は

確かに増加しました。コロナ禍で

変化する現地ニーズをビジネス

チャンスと捉える企業が数多く存

在するということだと思います。

福岡銀行の海外駐在員事務所

では、市場調査、現地進出、ビジ

■図4 DON DON DONKI(銅鑼灣:名珠城店)



ネスマッチングのご相談を承っています。現地事情をお知りになりたい方は、ふくおかフィナンシャルグループ各行(福岡銀行、熊本銀行、十八親和銀行)の最寄りの支店までお問合せください。

※1:「Fly」と「Vacation」から派生した造語で、「フライトを楽しむ休暇」の意味。なお、「ホテル宿泊を楽しむ休暇」の「Staycation」もある。

※2:パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス(PPIH)グループが展開。日本産農林水産物や食品が中心商材。

2021年9月30日現在
(香港駐在員事務所 長真太郎)